

# 「都市と農山村の交流」

NPO法人 共存の森ネットワーク

世田谷区教育委員

澁澤 寿一

# 「東京」とは違う、「江戸」の社会

## ・自然共生型社会

植物、植物性プランクトン、藻類の**光合成量利用社会**、  
1年間の使用エネルギーは1年間の自然の生長量  
(**自然再生エネルギー**がすべて、そして**自国産の食料**)

## ・循環型社会

人間の**排せつ物**を火山灰土壌(関東ローム層)の**田畑に戻す**仕組みが、  
江戸の最大の物流システム(金肥)  
多くの修理業、古着屋、古道具屋(江戸の基幹産業は**リサイクル業**)

鎖国は現代の「**宇宙船地球号**(地球は有限)」に符合する

## 都道府県別食料自給率(カロリー、2018)

北海道	196	東京	1	滋賀	48	香川	33
青森	120	神奈川	2	京都	12	愛媛	36
岩手	106	山梨	19	大阪	1	高知	47
宮城	74	長野	53	兵庫	16	福岡	20
秋田	190	静岡	16	奈良	14	佐賀	95
山形	135	新潟	107	和歌山	28	長崎	45
福島	78	富山	78	鳥取	62	熊本	59
茨城	70	石川	48	島根	66	大分	47
栃木	73	福井	66	岡山	36	宮崎	64
群馬	33	岐阜	24	広島	23	鹿児島	79
埼玉	10	愛知	11	山口	32	沖縄	27
千葉	26	三重	40	徳島	41	全国	37

# イザベラ・バード

(英国婦人一人で東北、北海道を旅行「日本奥地紀行」、1878年、奥会津で)

「その日の旅程を終えて宿に着いた時、

馬の革帯が一つ無くなっていた。

もう暗くなっていたのに、その男はそれを探しに一里も引き返し、

私が何銭か与えようとしたのを、

目的地まで全ての物をきちんと届けるのが自分の**責任**だといって拒んだ」

# 栄一の考えた合本主義(資本主義)

- ・ 士農工商への反感。

経済の世界では、**皆が平等** (栄一の考えた、社会の**あるべき姿**)

- ・ 合理的に民間の富を国造り(富国強兵、将来づくり)に向ける

- ・ 「**信用**」と「**責任**」こそが**経済の原資**

「高利貸し」から「バンカー」の誕生 → 「**金銭**」の調達から「**信用**」の調達に

「**信用**」とは、未来社会のビジョンの「共有」と「実践」「**責任**」(論語と算盤)

- ・ **孫・敬三**(日銀総裁、大蔵大臣など歴任)の**不安**

「爺さんが資本主義という、**とんでもないもの**を、この国に持ち込んだ。」

# 暴走をはじめた資本主義

(1990年以降のグローバル経済)

コミュニケーションの道具としての「**お金**」、世界中で通用する、**公平で共通な「道具」**



公平だが限度がない(**欲望の抑制が効かない**)

バーチャルな貨幣(株、為替差益、債券...)の増加・パソコンの普及

**ウォール街**経済(**貨幣が貨幣を生む仕組み**、リスクの証券化)

**実体経済の70~100倍のバーチャルなマネー**



地球は有限、75億の人口の生存を貨幣は担保できるか？

「**いのち**」や「**持続可能性**」を「**お金**」で保障できるか？

そもそも、**エコロジー**(自然)あつての、**エコノミー**(経済)

世界の**富**の**50%以上**を**1%の人**が持つ(トランプ現象・不公平感)

江戸期から約150年、

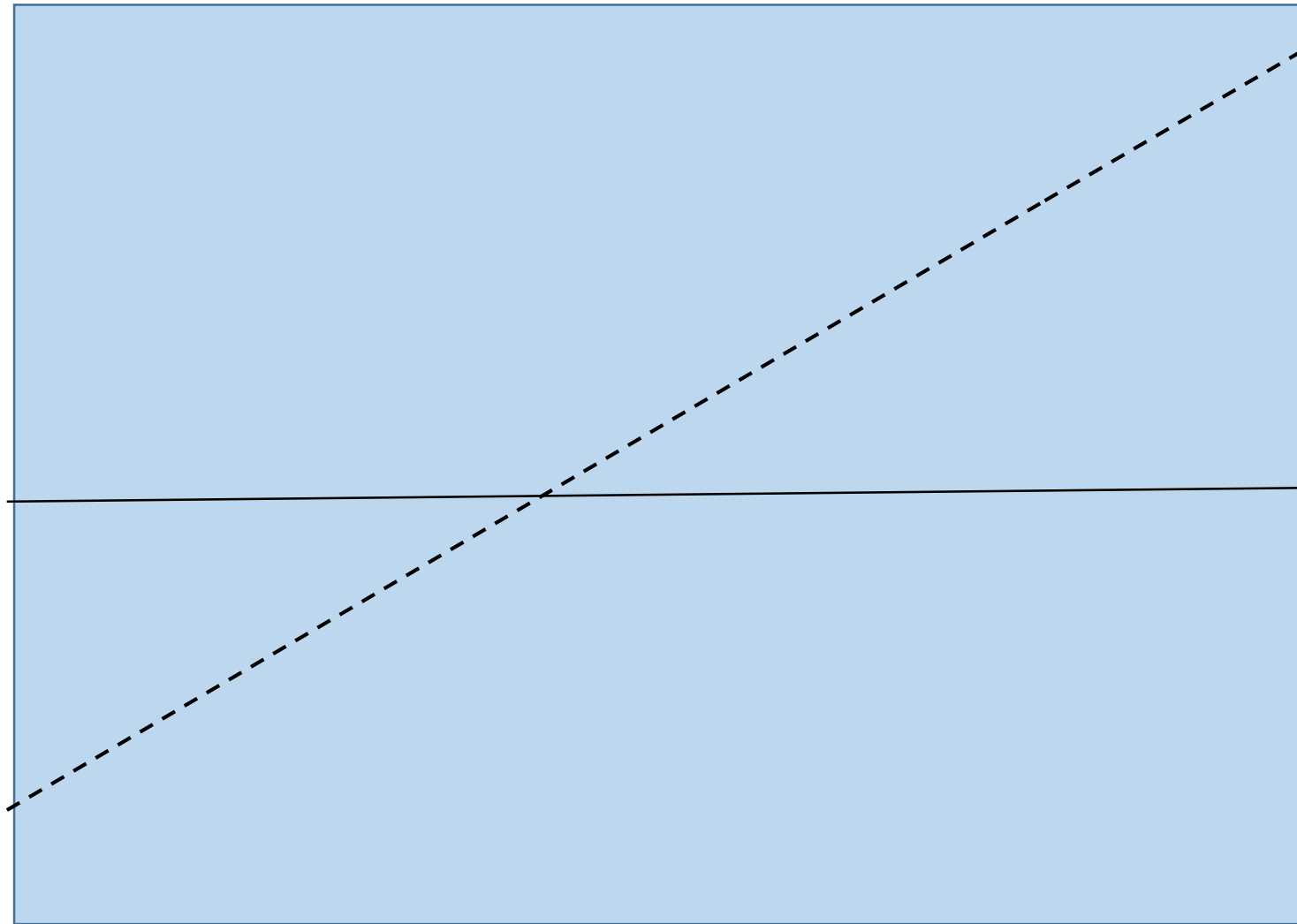
「科学」と「経済」 は発展したが、

「社会」や「人間」 は発展したのか？

発展とは、**幸せ**をつくるもの。

**持続可能な発展**とは・・・

# 「直進する時間」と「循環する時間」



文明(経済・技術・科学)  
「直進する時間」  
(都市)

文化(自然・知恵・生死)  
「循環する時間」  
(農山村)



持続可能な社会

江戸期

高度経済成長期  
(懐かしい昭和)

バブル崩壊



# 時代の転換点

70代以上

戦中・戦前生まれ

数万年続いた

60代～40代

高度経済成長期  
～バブル期

1960(S35)～1965(S40)

10代後半から20代

バブル以降

60年の実績

農村中心(生きる=働く)

自給自足

薪や炭

体を使って働く

歩く・馬や牛

伝統的な知恵や技

自然の厳しさ、豊かさ



都会中心(お金の社会)

冷凍食品・レトルト

石油・ガス・原子力

電化製品・パソコン

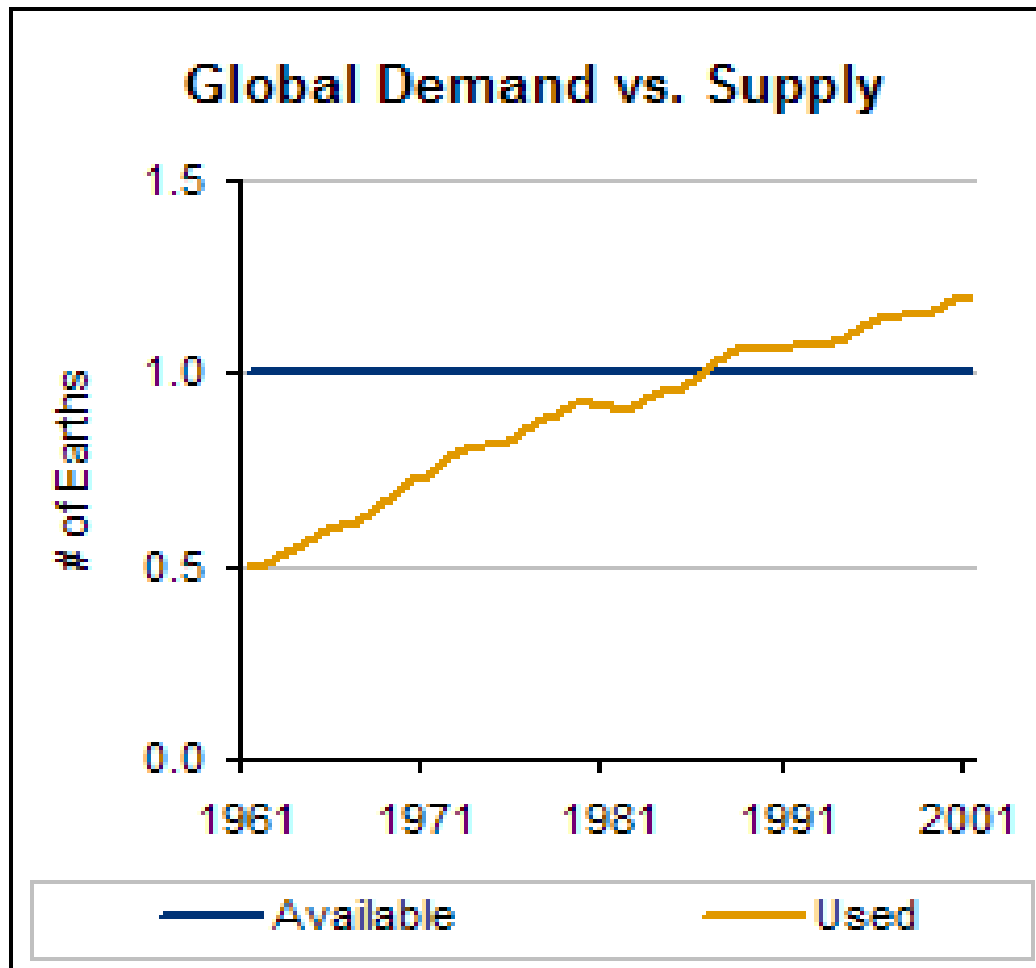
自動車・新幹線

情報化社会

公害問題・地球温暖化

# エコロジカル・フットプリント

—地球の足形(自然の成長量をどれだけ人間が使っているか)—



76億の人間が、  
日本人と同じ暮らしをすると、  
地球が、**3**個必要。

持続可能ではない、

「現在の普通の暮らし」

日本は先進国なのか!?

私たちの知る唯一つの「**持続可能な社会**」

それは、「**先祖**」から続く、今の「**あなた**」

# 山村の暮らし

## 生きるすべてを自然から調達

- ◎ 豊かで清涼な**水**
- ◎ 田畑に入れる**肥料**
- ◎ 牛や馬に食べさせる**飼料や敷料**
- ◎ 日々の煮炊きや暖房に使う薪や炭(**燃料**)
- ◎ ヒエやソバなどの**食糧**(焼畑、循環利用)
- ◎ クリやトチなどの木の实(**主食**として扱われた地域も見られる)
- ◎ 山菜やキノコ(**保存食**)
- ◎ 建材や屋根を葺くための茅(**建材**)、護岸を補強する(**土木材**)粗朶(そだ)や柴
- ◎ 駕籠やロープになる**蔓や蔦**
- ◎ 衣服の糸となるフジ、クズ、イラクサ(**繊維**)
- ◎ 紙を漉くためのミツマタ(**繊維**)
- ◎ 農具や生活**用具**
- ◎ 商品になる和紙や木工品(**現金収入**)
- ◎ 薬になる草木(キハダ、ウワミズザクラ、オトギリソウなど..**薬**)
- ◎ 現金や食料となるクマやシカなどの**哺乳動物、魚や鳥やサンショウウオ**

# 山形県小国町金目の栗林

- 「栗林1町、家1軒」の伝承

クリの収量 ..... 10トン／1ha(1町)

クリの生り年 ..... 2年に一度(隔年)

クリの平均収量 ..... 5トン／1ha／年

クリのカロリー ..... 1,560kcal／キロ

1年間のクリの消費 ..5トン÷365日÷ 10人(1家族)

=1,37キロ/日/人

=**2,140kcal**/日/人

成人男子の基礎代謝量 ..**1,500kcal**／人

成人男子の平均代謝量 ..2,550kcal／人

# 関係性喪失 「無縁社会」という現実

- 人と人の関係性

家族間、友人間、組織内、地域内。「**今だけ・お金だけ・自分だけ**」

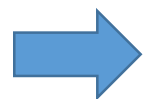
「孤立社会」、「LINE社会（貧情報社会）」

- 人と自然の関係性

生産と消費の分離、自然を知らない消費者

- 世代を超えた関係性

これから生まれる世代に対する配慮の無さ、無関心



**持続可能社会の崩壊**（経済性、効率性のみが優先）

## 無縁社会の本質

「無縁社会」 = 関係性の遮断 = 「私らしさ」の喪失

「無関心」「無視」「面倒くさい」

これは愛の枯渇した状態

「愛」の反対は、「憎しみ」ではなく「無関心」

(マザー・テレサ)

地域の**自然**、**祖霊**、**神々**には「無関心」、他人を「無視」、他世代は「面倒」

「**愛**」のきっかけは「**興味を持つ**」こと！

**持続可能な社会をつくるには、**

**人と人**、**人と自然**、**世代と世代**が、つながること

→ つながるには、お互いが**関心**と**共感**を持ち合う社会

(**関係性づくり**→合本主義の思想、**幸せ**な社会)



豊かになった国「日本」は、

幸せになったのか !?

# 現代社会の問題

## 農山村(自然資本の世界)の問題

- ・過疎化
- ・高齢化・少子化
- ・都市との所得格差
- ・教育環境
- ・医療
- ・働く場
- ・水と食料の自給
- ・バイオマス・水力・風力・太陽

## 都市(お金の世界)の問題

- ・空洞化(巨大団地)
- ・退職高齢者の役割・居場所
- ・食の安全・安心(確保)
- ・ストレス・不安・落ちこぼれ
- ・健康、感染症
- ・若者の雇用・働く場
- ・生存の基盤は海外依存
- ・エネルギーの海外依存

農山村(自然資本の世界)都市(お金の世界)、共通の問題

人口減の社会、AI・IOT社会の生き方・新しい働き方

ポスト・コロナ、新たな感染症、天変地異、宗教対立

(都市と農山村の目指す姿)

- 新しいライフスタイルの構築
- 新しい社会のための、  
教育、福祉、エネルギー、食べもの、健康 …
- 今の社会とは違う価値観、幸せ

## そして、AI・IOT社会へ

- ・ 子供たちの65%は、大学卒業後、今は存在していない職業に就く。

キャシー・デビッドソン氏 (N.Y市立大学大学院センター教授)

- ・ 今後10～20年程度で、約47%の仕事が自動化される可能性が高い。

マイケル・A・オズボーン氏 (オックスフォード大学准教授)

- ・ 2030年までには、週15時間程度働けば済むようになる。

ジョン・メイナード・ケインズ氏 (経済学者)

「働くこと」「労働」の意味の変化

## 労働の意味の変化(戦後70年～現在)

「 **GDP**を向上させるための労働 」  
(経済的価値のための労働)

経済的価値を重視して生きることが**幸せ**、という価値観。

戦後、復興のための経済を建て直し、生産性を上げることが不可避。



専業主婦は労働ではない、育児も、介護も、重要な労働とは言えない。

年収は高い方が幸せ。どの会社に勤めているか、が社会的ステイタス。

大企業の方が中小企業より大切で社会的価値が大きい。

費用対効果で表せないものは価値ではない・・・ 高度経済成長期の論理

(現在～これからの20年)  
「 生きる意味を問う労働 」  
(meaning of life)

地に足が付き、 コミュニティの中で必要とされ、

自然の中で、その恵みを得ながら、必要最低限のモノを持ち、

多くの人と、世代がつながっている社会を実現する。

お金より共感や協働。 共感できなくても、共生(自治)。

Do より Be が大切。 働くことは、生きること。

お互いが持つ弱みを許容し、そこから社会づくりを考える・・・

人生は、「職業選択」ではなく「生き方づくり」

# 対極ではない都市と地域

都市の問題は、都市だけでは解決できない。

地域の問題も、農山村振興策だけでは解決できない。

日本の問題も、グローバルマーケットだけでは・・・

⇒ 環境・経済モデル + 生き方・働き方モデル

(外部経済+地域内循環経済、環境保全)

(価値観づくり・人づくり)

経済的豊かさだけを求めない、「未来の社会」「幸福」「生きがい」を皆で考え、実践する。

地方創生は、経済創生ではなく社会創生